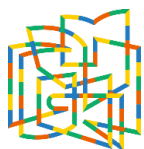


第4回 清瀬市



図書館を使った
調べる学習コンクール

作品募集!

テーマは自由!

コンクールへの挑戦は、自分の考えていることを知ってもらえるチャンス!
今年の夏は、日頃、疑問や不思議に思っていることを調べてまとめてみよう!!

令和3年度から始めた「清瀬市図書館を使った調べる学習コンクール」を今年も実施します。清瀬市では、毎年優秀な作品を全国コンクールに推薦しています。

過去には中学生の「清瀬を魅力的な街にするには～レビューが停まる街」(令和3年度作品)が全国コンクールで奨励賞を受賞しています。

市内図書館では、全国コンクールの過去受賞作品の複製の冊子を見ることができます。

自由と言われて、テーマに迷ってしまう人は...

図書館には、このような本があります!

『マイテーマの探し方』 片岡則男／著 筑摩書房

『図書館のプロが教えるく調べるコツ』 浅野 高史／著 柏書房

図書館では、知りたいことや調べたいことのお手伝いをします。

図書館の人に声をかけてみてください。



「これ何だろう?」「どうしてだろう?」
知りたいことをとことん調べてみよう!



コンクールの募集期間は8月27日(火)から9月11日(水)までです。応募方法等、詳しい内容は図書館のホームページや、館内のポスターにてお知らせします。みなさんのご応募をお待ちしております。

Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.56 2024.7

清瀬市立図書館

17シーズン
巡るふたりの五七五

百舌 涼一／著
講談社



中学二年生の松尾音々は、体育祭のスローガンをきっかけに、学級委員で優等生の天神くんから「句会」へ誘われます。そこで初めて詠まれた俳句を聞き、その世界が目の前に広がる不思議な体験をします。ある出来事がきっかけで、家族以外と話をすることが苦手になってしまった音々が、俳句の世界を通して、言葉の大切さ、声に出す心地良さを知り、抱えていた悩みや生きづらさを乗り越えようとする物語。

「言葉」は時に、人を傷つけてしまう面を持っているけれど、人を感動させたり、背中を押して、一歩踏み出す勇気を与える面もあります。

作中の十七音に込めた思いや、登場人物の声を想像しながら読んで欲しい作品です。
〈元町図書館 小島〉

友だちと一緒にいるのは楽しいですよ。でも時々「ちょっと疲れたな」と思うこと、ありませんか？「すぐに返信しなきゃ」「意見が違うとき、なんて言えいいんだろう」・・・こんなモヤモヤを抱えたとき、寄り添ってくれるのがこの本です。

友だちと知り合いの違いとは。古代ギリシアの哲学者が語った「友」「真の友情」とは。また、かつてと異なりSNSが発展した現代の「友だち」関係がいかに大変なのか——。そう、こんなに大変なのだから、たまにモヤモヤするのは当たり前。

ただ、「こんな時はこうすればいいよ」というアドバイスが書いてあるわけではありません。なぜなら、どうするかを決めるのは皆さん自身。自分にとってちょうどいいスタンスを見つけてみてください。

〈中央図書館 小野〉

友だちがしんどいなくなる本

石田 光規／著
講談社



今日のかたすみ

川上 佐都／著
ポプラ社



家族から離れて暮らすのってどんな感じでしょう？一人暮らしもあるし、誰かと暮らすのもありますよね。

この本では、お母さんとケンカして、別居していたお父さんのところに行った中学生や、アパートの隣に住むおばあさんと、思いがけず交換ノートを始めることになった大学生などの、5編の短編が入っています。

誰かと一緒に暮らすと、相手の意外な一面にふれる新しい発見もあるでしょう。それはちょっと自分と違うなと感じることもあるかもしれません。

そんなささいな出来事から感じたたまごい、気づきのなかから、『誰かと生きる日々のきらめきを、優しくすくい上げた5篇の連作短編集。』です。

〈駅前図書館 長谷川〉

この本を開いた時、「今の日本に政治家はいない。だから、君にこそなっしてほしい」との一文が興味をひき、読んでみる事に。

著者は、市長を十二年経験した人物です。自身の体験談を元に皆さんに政治家になってもらいたいと懇願するような内容です。流れ的には、本来は「一章、二章…」と展開していくが、一週間の流れのように「一日目、二日目…」と段階を踏んで進行します。大事なポイントは、太文字で強調しています。そして、各日終了時、重要な点をおさらいし、まとめています。

著者の親族に足の不自由な方がおり、十歳の時に「やさしい街にする」と決心し、皆さんと同世代の頃に、ある本に出会い、政治家になるきっかけとなったそう。皆さんの目指すものは？

〈駅前図書館 乗田〉

10代からの政治塾
子どもも大人も学べる
「日本の未来」の作り方

泉 房穂／著
KADOKAWA

